

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	経済学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究科博士課程前期課程開講科目の優秀で意欲ある学部生のへの開放と研究科への進学数の増加をめざす。また、高度専門職に就く博士課程前期課程修了者数の増加をめざす。	→高度専門職(民間企業調査管理部門、公務員専門職、税理士等)に就く博士前期課程修了者数。	B	B	B	B	
2. 休暇中の集中講義を充実し、国内外から気鋭の外部講師招聘により研究科の講義・演習内容の向上を図る。	→学外研究者講師による集中講義開講数と履修者数。	B	B	B	B	
3. 留学生向けの授業科目を充実させる。	→外国人留学生受講対象科目開講数。	C	C	C	C	
4. 英語による授業科目を増やす。	→英語による授業科目開講数。	D	D	D	D	
5. 大学院生による授業評価の実施とその結果を公表する。	→大学院学生による授業評価の実施回数と回答者数。	A	A	B	A	
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	専門科目のナンバリングにより、科目レベルの把握ができるようになったと同時に、大学院連携科目（400番台）は、大学院入学後単位認定が可能である。しかし履修者と入学後の高度専門職への就職の流れについては、把握するほどのデータが揃っていない。
目標2	院生数が少ないため、2012年度は外部招聘者による集中講義はなかったが、指導教員により適宜、外部セミナーやワークショップへの参加を指導している。
目標3	研究科独自の留学生向け科目の検討には至っていない。
目標4	英語による授業科目は Japanese and Asian Economies A・Bである。
目標5	2012年度に科目別アンケート実施方法に変更し、春学期は27科目中22科目、のべ56名より回収、秋学期39科目中23科目、のべ46名であり、回答結果は担当者に返却し、今後の授業のための参考資料としているが、公表はしていない。
備考	